

第3回 出雲市水道事業推進懇話会 会議録

1. 開催日時 平成30年7月23日(月) 14:00～16:00

2. 開催場所 出雲市上下水道局2階入札室(会議室)

3. 会議の出席者

(1) 委員(9名)

足立修司 委員	井上千晶 委員(会長)	金村英俊 委員	神谷哲男 委員
高野智子 委員	佐藤彰尾子 委員	園山裕美 委員	安井多喜恵 委員
山本富子 委員			

※欠席者5名

(曾田博美 委員、曾田満子 委員、中川弘美 委員、錦織文子 委員、山田学 委員)

(2) 出雲市(7名)

上下水道局	局長 田中勤一、次長(水道営業課 課長) 佐藤恵子
水道営業課	課長補佐 妹尾俊彦、主任 上原和也、主任 岡貴行
水道施設課	課長 岡芳幸、係長 矢田浩幸

4. 次第

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 議事

- ・出雲市水道事業ビジョン(素案)について

(4) その他

- ・平成30年7月豪雨に係る災害派遣状況について
- ・平成30年度出雲市水道事業会計 予算の概要について

(5) 閉会

5. 意見・質疑等(別紙のとおり)

6. その他

- ・次回の懇話会は10月～11月頃を予定

【別紙 意見・質疑等】

（委員）

◇現状の分析と課題について

それぞれ明確な課題が並んでいるが、それに対してどういう答えがあるのか。42ページ以降の基本方針にその答えが書いてあるが、課題と答えのつながりがよく分からない。課題を出してあるのなら、その答えを書くなど、項目や記載方法を再確認して欲しい。

◇投資・財政計画について

57ページの資本的収支で平成29年度・30年度が突出している（簡水統合・向山配水池再構築事業）が、グラフだけ見ると理由が分からない。56ページを読めば分かるが、グラフの下あたりに説明があっても良いのかなと思う。

◇広域化について

香川県が全県で一つの水道事業となった事例もあり、今後の財源について一番不安があると思う。施設の老朽化が進み、少子化で水道の収入が減るが、財源も大丈夫ですよという感じを出すと市民は安心するのかなと思う。また、斐川は別だし、斐川から平田へ水を持って行くと近いとか、将来的に広域化について、どのように考えているのか疑問だなと思う。

（委員）

◇料金・財政について

他県では広域にシフトして財源を確保するという記事を見たが、財源についてメリットはあると思うが、デメリットはないのか。掲載するならメリット・デメリット両方記載したほうが良い。

また、料金が上がることが記載されていたが、分かりやすく一軒当たりいくら上がるとか金額が記載されていると良いかなと思う。

◇災害時の対策について

先般、災害ボランティアに参加した際、道路が遮断され、貯水施設にも行けず、たまたま近隣にあった井戸の水を使うという状態だった。災害時は道路遮断により施設が使えないことを予測した場合、井戸水や山の湧水など、点々と施設が数多くあれば対応しやすいかなと思った。出雲市でもそういった対策がとれればと思う。

（委員）

◇全般

今後、人口減少により水道の需要は少なくなる。出雲市は料金が島根県で2番目に安いので、江津市とか大田市のような水道料金が高いところに売れば良いと思う。安全で美味しく安いものがあれば、どこにでも売れる。そういう方向で考えていくのはどうか。

（委員）

◇その他水道サービスの持続性の確保

31ページ民間企業との連携強化について、水道を民間企業に委託した場合、現状と比較してどれだけ金額的に違うのか、委託した方が安いならそちらが良いのではないかと、思った。

◇情報発信について

コミセンで様々な活動をしておられるので、水源地の視察やどのように家庭に水が送られてくるかなどについて、コミセン活動の中に入れてもらえれば、皆さんもっとよくわかるのではないかな。

◇災害時の対策について

大阪の地震や今回の豪雨災害をうけて、水は本当にありがたいものと改めて思う。災害現場で水がなくて困っておられることを思うと、水道料金をあげても災害に強い出雲市の水道にして欲しいと思う。災害が起きてからでは遅い。

(委員)

◇簡水統合について

以前の事がよく分かっていない市民にとって、簡易水道を統合したことについてもっと具体的に分かりやすく一文添えてあると良いと思う。

(委員)

◇現状の分析と課題について

課題と実現方策の記載がリンクしていないので、見やすい内容で作られた方が良いと思う。

◇適正な水道料金等に基づく収入の確保

滞納整理の強化とあるが、具体的な対策はどのようなものか。具体的に書くのであれば相談いただきたい。

◇災害時の対策について

大阪の地震や豪雨水害があり、水の大切さは連日報道でも言われている。住民として日頃からどういう備えをしていくか、災害に対する施設の強靱化について具体的に分かりやすく書いていただければ良いかなと思う。

(委員)

◇水道事業の沿革

9ページ以降の各地区の沿革、あまりにも細かく書いてあり、これをどうしたいのか、現状と課題とのつながりが分からないので、書き方に工夫が必要でないか。

◇広域化、災害対策について

報道等でインフラ整備・人口減で水道事業は大変だと言われているが、その中で出雲市は広域化について、どのように考えているのかははっきり書いてあると良いと思う。また、災害対応について、市が今後つくっていく新しい施設があると思うが、他部局との連携についてはどのように考えているのか。

(委員)

◇全般

新聞など水道民営化という言葉もあり、水道が民営化になるとどうなるのか。また、広島の実験では山の湧水などが活躍した。広域化よりも小さい単位の方が災害時には対応しやすいのでは

ないかと思う。

(委員)

◇現状の分析と課題について

課題とビジョンが一致しているかどうか、分かりにくい。特に、安全でおいしい水を届けるとあるが、おいしい水について記述があまりなかったかなと思う。また、市民に対しての読みやすさという点で一貫性が欲しいと思う。

◇災害時の対策について

水道事業だけにとどまらない広い範囲、他部局との絡みもあって書きにくいかもしれないが、災害時の連携の方策という点で記載があれば安心・強靱につながるのではないかと。

(事務局)

◇課題と方策との関係について

分かりにくいということであったので、表現について検討させていただく。

◇広域化について

国の方から県が中心となって県単位での広域化の検討をするようにということがあるが、島根県については具体的に進んでいないので記載する段階にない。記載するとしたら、検討しているというくらいの表現になる。斐川町との連携であるが、現段階で具体的に記載するのは難しい状況である。

◇料金・財源について

現在、水道料金等審議会で審議中であり、現段階で盛り込むことはできない。ビジョンにおいては、今後10年間の建設的な事を中心としたものとした。

◇情報発信について

コミセンとの連携、おいしい水について、記載を検討する。

◇滞納整理の強化

現在行っている停水とか弁護士委託以外で具体的な方策について記載できるものはないが、今後具体的なものがあれば周知を図りながら行っていきたいと思う。

◇沿革について

水道の歴史ということで、写真とともに記載しているが、字が小さいとのご指摘をいただいたので、記載を検討する。

(事務局)

◇広域化について

島根県は県内を3ブロックに分けて広域化を検討しており、今年度中に県で取りまとめをする予定。各事業体で料金や施設整備等で大きなバラつきがあり、現状としては広域化の検討をする程度。

◇民営化について

コンセッション方式だと、水道事業体の規模が小さくないと民間事業者も儲からないはず。国内では1、2例検討中。

◇水を売ることについて

水を売ったらどうかということであったが、出雲と大田でも料金に差がある。管路を整備しないといけないし、出雲も水が余っているわけではなく、多く作れない。将来人口が減る見込みで、施設も大きくできない。

◇その他

おいしい水について、出雲市ホームページ内の「いずもな暮らし」において、出雲のおいしい水について載っている。

ビジョンは大きな計画であるが、ご意見いただいたことについて、修正して、市民の皆さまに分かりやすいものにしたい。

(事務局)

◇災害時の対策について

平成17年度の合併以降、水道の状況を見ながら施設整備を行ってきた。貯水施設の容量を増やしては、という意見もあるが、収入や将来的な人口減少との兼ね合いもある。分散化や小さい単位でという意見については、出雲市内14か所で水をつくっていて、分散しているという面もあると考えている。また、災害に強い施設への更新、耐震継手の採用などを行っている。

(委員) 水源が豊富ということであるが、災害対策としての湧水などは大丈夫なのか。

(事務局) 斐伊川の水があるとはいえ無尽蔵にあって大丈夫とは言えない。施設にはメンテナンスも必要で、取水量・配水量は決まっている。今年2月の寒波でも、漏水の影響で貯水施設の水量が減ったが、空にならないように水圧を管理しながら送水していた。施設の管理という面では、大きな施設をつくってもコストがかかるので、適正なものでやっている。

(委員) なぜ水道事業は税金投入なしでやっているのか。

(事務局) 地方公営企業法で、基本的に料金収入で事業をなさいと規定してある。税金を投入して料金を安くしろという方もいらっしゃるが、その場合、他の事業ができなくなる。なるべく料金を抑えながら、税金を投入せずやるようにしている。

(委員) 住民にとって、出雲市の水道料金は県内でも安いですが、高いところの人はどう思うだろうか。

(事務局) 高いところは税金を投入しているところもあり、安いところは施設整備を行わず維持管理しかしていないところもある。

(事務局) 税金を投入すると市の一般会計が財源不足になる可能性がある。

(事務局) 高い安いはそれぞれあるが、事業体が運営できれば良いと思う。蛇口をひねれば水が出るのが当たり前であって、我々はそのために事業を行っている。使ったものは使った人にご負担いただくことを原則に、施設更新を平準化した事業計画で行っていきたい。

(委員) 皆さんは上下水道局の職員で出雲市の職員ではない？ 給料は市役所から？

(事務局) 市職員だが、給料は水道料金から。給料体系は市役所と同じ。

(事務局) 大きい事業体では局で採用～退職までしているところもある。また、広域化の話だが、広島県や香川県はほとんど水源がないため、市町村が単体でやるとどうしても料金が高くなるので、県が水を作って市町村に供給する方法をとっている。島根県は東西に長く、管路の維持管理が大きな負担となるため、なかなか協議が進んでいない。将来的には人口減・料金収入減となり、広域化という話になるかもしれないが、現状としては出雲市単体で頑張っ、災害に強い施設をつくりながら、少しずつ料金を上げていって市民の皆さまに負担感を持たせないようにしながらやっていく。

(委員) 企業債残高は他事業体と比べて少ない方かどうか。

(事務局) 水道料金と起債のバランスが指標としてあり、出雲市と同程度の給水人口規模だと料金収入の2.5倍くらいの借金が平均的なところで、出雲市だと3.5倍くらいあり、そこに簡易水道の借金もさらに含まれるので高い水準になる。ただ、今後10年間では、毎年10億くらいずつ返していて、10年後には2.5倍程度までになる。

(事務局) 簡易水道の償還については、市から特例的に5年間は満額、その後5年間徐々に減額していくが、繰入がある。県用水については、16ページに円グラフで記載があり、この割合を少し増やすことも検討している。

(事務局) 県用水は平田で受水している。13ページの給水区域の北側ピンク着色部分。

(事務局) 県用水の割合は4.3%。この割合が多いところだと県で広域化という話になりやすいと思う。

(委員) 出雲市独自の対策、他県や他事業体との比較よりも出雲市はこうだというものを明確にした方がよい。県用水は尾原ダムで貯水するので、ダムの水はおいしい水ではないと思う。また、ダムは決壊するかもしれないので、安全な水という表現はどうかと思う。施設整備などは、災害対応できるようにつくりかたを他の部局とタイアップして考えられると良いと思う。